

# 目標達成の初優勝

## 2位に9打差の圧勝

通算6オーバー 222

宮崎・日章学園高3年

菅 楓華（宮崎国際）



【写真は初優勝の菅<sup>Ⓔ</sup>と3年連続2位のチームメートの荒木<sup>Ⓔ</sup>】

圧勝である。まさに一人旅。2位に9打差の6オーバー222ストローク。初日75でトップに立つと、2日目に唯一人パープレーの72で回り、2位に9打差をつけた。この時点で優勝争いの興味はなくなったと言ってもいい。古賀GCの速くてアンジュレーションもきつい上に、砲台という難しいグリーンに多くの選手が悩まされた。3日間でアンダーパーは1度も出ることはなく、菅の2日目の72がベストスコア。それだけ苦しめられた、とい

うことである。菅だけが「かやの外」にいた。

「今年が目標が『九州』というタイトルを取ることであったので、達成できて嬉しい。この3日間、思った通りのプレーができた。狙った所に打てたし、マネジメントもできていた。フェアウエーをキープできたのが優勝につながったと思います」。ドライバーショットの第1打がラフにつかまると、グリーンに止めにくくなる。菅の3日間のフェアウエーキープ率は7割以上。安定したティーショットがトータル11個のバーディーとなり、54ホールでボギーはあっても、ダブルボギーは1度もなかった。

日々の努力が優勝をもたらしたのだが、同じ日章学園高（宮崎）のクラスも一緒に荒木優奈の存在も大きい。「近くに一番うまい人がいる。刺激にもなるし、意識もしている。頑張らないと、おいていかれる。おかげで強くなったと思います」。昨年日本ジュニアでは荒木にプレーオフで敗れて悔しい思いをした。今回はナショナルチームのメンバー荒木に堂々の9打差。借りを返したのである。

九州の強化指定選手の菅は、日本ゴルフ協会（JGA）主催で1月に宮崎で行われた「8地区強化指定選手合同強化合宿」に参加。その後は3月の豪州遠征にも帯同した。ここでナ



ショナルチームのガレス・ジョーンズヘッドコーチから多くのことを学んだ。「それまで何となくゴルフをやっていたけど、しっかりと目標を持って、向かっていけるようになったと思います」。多くの経験が菅のゴルフの成長の糧となっている。

6月の「日本女子アマチュア選手権」には九州女王として臨む。「まず予選を通過して、トップ10に入りたい。このコースで勝てたのは、大きな自信になります」と控えめな目標を設定した。

高校3年生として菅の今年の最大のターゲットはプロテスト合格。まず1段目の「九州」というタイトルは自分のものにした。この後も決めた目標を目指して着実に駆け上がって行く。

## 《上位選手のひと言》

◆3年連続2位の荒木優奈（グリーンランドリゾート）「それまで2年連続2位だったので今年はかけていたんです。悔しい。ショットは思い通りにいったけど、マネジメントが……。それが課題ですね。（ナショナルチームで）試合が続いて練習不足でした」

◆昨年優勝の藤本愛菜は4位タイ（ミッションバレー）「2連覇を目指していたけど、空回りしました。最終日は前半に3連続バーディーとかあって良かったんですが、後半はショットで力が入ったり、パットで手が震えたりして。メンタルを強くしないとダメですね」

